

検査項目		検査についての説明
血液検査	白血球数	体内に侵入した病原菌や異物に対する生体防御としての働きがあり、細菌や異物の侵入により炎症を起こすと血液中の白血球が増加します。また、白血球が減ると免疫機能が低下します。
	赤血球数	血液成分の大部分を占め、酸素と二酸化炭素を運搬する働きがあります。赤血球が減ると身体は酸欠となり貧血を起こします。
	ヘモグロビン量	赤血球に含まれる血色素(血液の赤い色)で、酸素運搬の中心的な働きをしています。貧血で低値を示します。
	ヘマトクリット	血液中に占める赤血球の割合を表したもので、貧血で低値を示し、多血症や脱水などで高値を示します。
	血小板数	傷ついた血管の穴を塞ぎ、出血を止める働きをしています。血小板が減ると出血が止まりにくくなったり、出血しやすくなったりします。
血液検査	M C V	赤血球数、ヘモグロビン量、ヘマトクリットから計算される赤血球指数で、貧血の大まかな分類をするための目安となります。
	M C H	
	M C H C	
血液検査	血液像	<p>主に白血球の種類別の増減を調べる検査で、好中球、リンパ球、単球、好酸球、好塩基球などの種類があります。これらの成分の増減を調べることで、いろいろな疾患を判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好中球：殺菌作用が最も盛んで、化膿性炎症や心筋梗塞、外傷などの急性組織障害などで増加します。 ・リンパ球：免疫に関与しており、ウイルス感染症などで増加し、免疫不全症などで減少します。 ・単球：異物を取り込む働きがあり、結核、梅毒などの感染症や膠原病などで増加します。 ・好酸球：炎症性病変に対して鋭敏に反応し、喘息、じんま疹などのアレルギー性疾患や寄生虫症、膠原病などで増加します。 ・好塩基球：慢性骨髄性白血病、結核、インフルエンザなどで増加します。